

講演「2002年、緊急経済情報」

未来予測コメンタート 下川 栄次郎 氏 (02-10)

1995年、「為替80円割れ」を言い当てて一躍に有名になった下川さんが、これを最後に講演を一切やめるそうです。「大竹（慎一）の円安」に対する「円高の下川」、これが為替予測の貴重な判断材料になっていただけに残念です。最終講演の今回も円高説で、「政府、日銀はなぜ円安への介入を続けるのか！」と批判しています。ここ当面の政治、経済（相場）予測はかなり厳しい…。

- * 10月11日の日経平均8100円は当面の「底」だろう。私は10月21日頃、7800円と読んでいたが、10日ほど早まった。下落してきた時と同じエネルギーでV字型に戻そうとするのが相場。その計算でいくと11月下旬に9800円をつけ、来年3月までには最大12000円がターゲットになる。3月以降5月下旬頃までは下落していく。
- * 大きなトレンドでみると、03年から右肩下がりに入り04年3月は5000円前後という、たいへんな状況になるのではないか。即ち、円高（私の予測は103円）で輸出関連業種がかなりの打撃を被るからだ。1円上がれば200～300億円の打撃を受けるだけに該企業の収益減は大きく、株価はかなり低い水準まで落ちていかざるを得ない。
- * NYダウと日経平均は過去1年間、1400ポイントの差で動いてきた。前者が8000ドルならば後者は9400円というふうな。が、今は1100ポイントに縮まっている。従ってNYダウの戻しつつあることが、日本株の9000円台回復につながったのではないか。問題は米国の「イラク攻撃」だ。状況如何では大きく変動する可能性がある。
- * 90年4月に「1ドル160円」だったのが、今、125円、03年3～5月には103円まで行くと読む。これは黄金分割比（波動落差の1.618倍）で計算した結果だ。00年、株価が20600円になった時、106円となった。株価が上がると円高になるという特色もある。従って、日本政府の「何がなんでも円安に」という政策は如何なものか？
- * 私は常に「円高はプラス」とみている。デフレは確かに進行するが、たとえ「100円」になっても良いじゃないか。米国債を買う人もなくなり、政府日銀がドルを支える必要もない。また、通貨が強い国に世界からカネが集まり、輸出企業以外の株は上がる。さらには国が亡びることもない。政府の円安誘導政策（円安介入）は即刻やめるべし。
- * 政治について。小泉政権は5つの点で強力な政治を行える状態にある。米国の強い理解と後押しがある。北朝鮮を訪問するという首相の誰もはやれなかったことを断行したことに対する高い支持率。与党の中で小泉政権の力関係が強まっている。野党が弱体化した。北朝鮮の脅威がなくなったことでアジア全体からの支持がある。
- * が、「北朝鮮問題」「イラク攻撃による日米関係」などで不透明な部分があるのは事実。不良債権を早く処理しても、日本経済はよくなるわけがない。日本は個人金融資産をやりくりしていけば、何とかなる経済大国だ。オイルショックの74年に3300円、プラザ合意の82年は6800円だった日本の株価、それを思えば我慢できなくはない。
- * 米国のイラク攻撃、長期化しイスラム圏との全面戦争に入っていくのではないか。攻撃開始時期、私は来年はじめとみている。攻撃突入後の情勢についてグリーンSPAN議長の見方は「株価は下落、石油は上昇トレンドへ」。理性をなくした動きが3年程続き、戦争終了は06年頃か？戦争が長引くことは米国衰退のシグナルとみてよい。
- * これから10年の予測。戦争終了時の2006年、世界は大きな経済収縮と大型デフレが起り、10年～12年にはナノテクバブルが始まり回復に転ずる。ナノテクは日本の特技、明るいポイントだ。03年～04年にかけて凶作もあって穀物相場が急上昇する。他方、不動産は10年間、上がることはない。むしろ商業地は下落するのでは？
- * 大旱魃、大洪水、大地震により食糧危機がここ10年以内に発生する。太陽系の銀河星団にある地球は、何万年かけて電子レンジのように回転しているが、そのサイクルの到達時期が12年12月（フォバルト進行）それによって大変動が起きるのだ。とにかく「良いことを思えば良いことが起る」ことを念頭に置いて生きるしかない。